

2025 年度 学校関係者評価委員会報告書

学校法人MAYA学園 専門学校島根 IT デザインカレッジ

学校関係者評価委員会

学校法人MAYA学園 専門学校島根 IT デザインカレッジ 学校関係者評価委員会は「2024年度学校自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を2024年6月19日(木)に実施したので、下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員

名 前	所 属
持田 伸吾(委員長)	卒業生：合同会社チェリー 代表
山田 邦彦	株式会社 MAYA SYSTEM 執行役員
落合 孝行	奥出雲町議会議員
佐々木 美幸	保護者：専門学校島根 IT デザインカレッジ 教育助成会 会長

2. 実施方法、公表

学校関係者評価の実施にあたっては、年度末に実施した「学校自己評価報告書」を2024年度学校関係者評価委員会にて学校関係者評価委員の皆様にご説明し、学校自己評価の各項目に対するご意見と評価をとりまとめた。

評価結果は、今後の本校における教育活動や学生指導等の学校運営の改善にいかし、教育水準の向上に努めることとし、ホームページ等に公表します。

3. 2024 年度学校自己評価における学校関係者評価

評価 5. 完璧 4. かなり進んでいる 3. 普通 2. やや足りない 1. ほとんど進んでいない
NA. 当てはまらない

2025年度学校関係者評価委員評価一覧

評価 5. 良い 4. やや良い 3. 普通 2. やや悪い 1. 悪い 0. 不明

基準1 教育理念・目的・育成人材像など

点検項目	学校評価	委員評価	問題点・改善事項
1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	3.50	4.25	
1-2 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3.81	4.25	
1-3 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3.75	4.25	

基準2 学校運営

点検項目	学校評価	委員評価	問題点・改善事項
2-4 理念等に沿った運営方針を定めているか	3.69	4.00	
2-5 理念等を達成するための事業計画を定めているか	3.73	4.00	
2-6 学校運営のための組織を整備しているか	3.44	4.50	
2-7 人事・給与に関する制度を整備しているか	3.46	3.50	

基準3 教育活動

点検項目	学校評価	委員評価	問題点・改善事項
3-8 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3.27	4.25	
3-9 教育課程について、企業など外部の意見を反映しているか	3.69	4.00	
3-10 学生等による授業評価を実施しているか	3.60	4.33	
3-11 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3.64	4.00	
3-12 教員の資質向上への取り組みを行っているか	3.50	4.00	

基準4 教育成果

点検項目	学校評価	委員評価	問題点・改善事項
4-13 就職率の向上が図られているか	3.54	4.50	
4-14 国家試験合格率の向上が図られているか	3.70	4.67	

基準5 学生支援

点検項目	学校評価	委員評価	問題点・改善事項
5-15 退学率の低減が図られているか	3.75	4.50	
5-16 学生相談に関する体制を整備しているか	4.27	4.25	
5-17 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4.00	4.00	
5-18 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3.77	4.25	
5-19 保護者との連携体制を構築しているか	3.56	4.00	

基準6 教育環境

点検項目	学校評価	委員評価	問題点・改善事項
6-20 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3.75	4.33	
6-21 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3.64	3.67	

基準7 学生の募集と受け入れ

点検項目	学校評価	委員評価	問題点・改善事項
7-22 学生募集を適切、かつ、効果的に行っているか	3.38	4.25	
7-23 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3.00	4.00	
7-24 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3.30	4.00	

基準8 財務

点検項目	学校評価	委員評価	問題点・改善事項
8-25 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3.40	4.50	
8-26 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3.67	4.00	
8-27 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	3.50	4.00	

基準9 法令等の遵守

点検項目	学校評価	委員評価	問題点・改善事項
9-28 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3.88	4.00	
9-29 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3.58	4.00	
9-30 自己評価や学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3.44	4.33	
9-31 自己評価結果や学校関係者評価結果を公表しているか	3.43	4.33	
9-32 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3.82	4.25	

基準10 社会貢献

点検項目	学校評価	委員評価	問題点・改善事項
10-33 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4.00	4.00	
10-34 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3.82	4.33	

基準11

点検項目	学校評価	委員評価	問題点・改善事項
11-35 留学生の受け入れへの戦略について	3.75	4.80	
11-36 留学生の受け入れへの実施状況について	3.88	4.80	
11-37 留学生の学習体制及び評価・生活指導についての学内指導体制	3.07	4.50	
11-38 学習成果の国内外での評価体制	2.71	4.33	
平均	3.60	4.21	

令和5年度より、学校法人第一平田学園から学校法人MAYA学園(継承時は「学校法人マヤ学園」)に運営が変わり、本評価は新法人としての2年目の運営に対する評価となる。

- ・上記11項目に対し、学校自己評価の平均は3.60(5段階評価)、委員による評価の平均は4.21であった。
- ・学校自己評価より約0.61ポイント、委員評価の方が高い結果となった。
- ・昨年度と比較し、学校自己評価は0.02ポイント低下、委員評価は0.28ポイント低下した。

運営継承後の初年度(2023年度)において、学生募集に注力した結果、学生数は10名から43名へと大幅に増加。さらに2024年度は69名にまで拡大し、開学以来最大の在籍数を記録した。これにより学生の活動の幅が広がり、地域との連携や情報発信の機会も増加している。

学校自己評価と委員評価の目立った乖離として、

- ①「11-35 留学生受け入れへの戦略について」、②「11-36 留学生受け入れの実施状況について」、③「11-37 留学生の学習体制及び評価・生活指導についての学内指導体制」、④「11-38 学習成果の国内外での評価体制」が挙げられ、集中して議論を行った。

急増した留学生の受け入れに対する明確な方針と体制整備の必要性が確認され、持続可能な運営に向けた提言がなされた。

学生たちの外部依頼制作物やアルバイト先での評価、リニューアルされたウェブサイトの運用状況などに対し、委員からは学校全体としての努力と成長が感じられるとの評価があった。

また、学生の存在感が地域内でも認知され始めており、町内の活性化への寄与についても期待が寄せられた。

一方で、学校側の自己評価は、理想や目標と現実とのギャップを踏まえ、慎重な数値評価となっている。

学校側からは「評価点の低さは自己改革意識の表れであり、今後の改善に活かしたい」との姿勢が示された。

委員会としての総合的な提言

- ・特に留学生の受け入れに際しては、文化や価値観の違いを前提としうえて、理想や現実との乖離にとらわれすぎず、「協働」という長期的な課題に地道に取り組んでいくこと。
- ・学生一人ひとりの成長や成果が地域に伝わるよう、授業成果物や学生活動の積極的な発信を推進していくこと。
- ・日本人・留学生を問わず、在学中の学習支援や生活サポート体制を強化し、卒業後の地域定着や就労につなげる視点を持つこと。
- ・より具体的かつ緊密に地域と連携し、小さくとも「実際の動き」を作ることで、経済・文化・人的な交流を加速させていくこと。